

1 学校研究

(1) 研究主題

主体的に考え、協働的に学び、自信を持って表現できる生徒の育成

(2) 主題設定理由

昨年度は、一昨年度に引き続き予習課題を取り入れた授業を推進し、更に学び合いの充実を図りながら、多様な意見に触れることを通して、思考の揺さぶりから学びの深まりを実感することができた。予習課題に取り組むことで、課題解決に向けた自分の考えを持って学び合いに参加でき、新たな発見や知識の深まりにつなげることができた。2学期には、生徒の考えをつなげたり、「発問」や「問い返し」で生徒に疑問を持たせたりすることでより深い学びにつなげることを意識した。3学期には、それらを継続しながら、学びの定着を図るため、適用問題や視点を絞った振り返りでまとめた文量を書く活動に取り組んだ。

取り組みの結果、自分の考えを持ち、さまざまな場面で伝え合ったり、表現したりすることに抵抗を感じる生徒が少なくなってきたようだが、適切な表現を用いて説明することができず、その結果「解答に自信が持てない」「学習理解に不安を感じる」という現状が見られる。

そこで今年度は、生徒の考えた「不十分な解答」をもとに、正しい表現を生徒同士で見つけ出す活動を繰り返し行うことで、自己表現力を高め、自信を持って学んだ知識を活用できる生徒の育成を目指したい。

【求められる力】

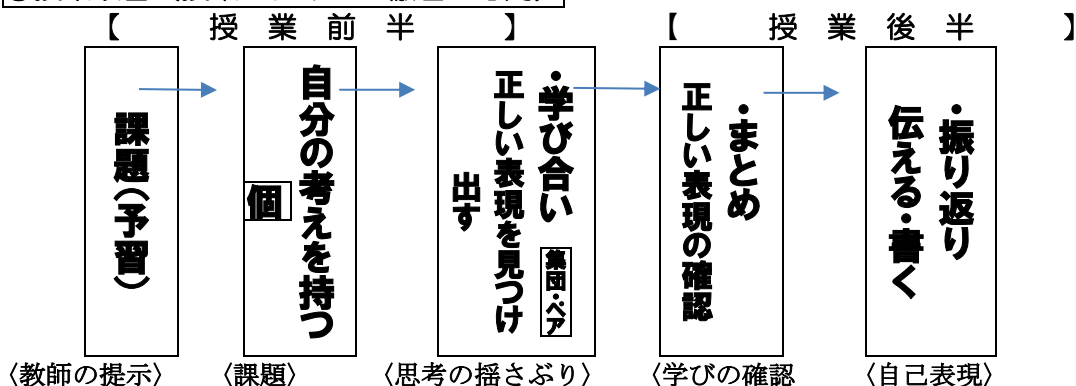
- ・生きて働く「知識・技能」
- ・未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」
- ・学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力」 - 人間性等の涵養 -

(3) 研究内容

- ①授業改善（授業スタイルの徹底と応用）
- ②学びを深めるペアやグループ活動の充実（研究の重点）
- ③道徳や特別活動、生徒会活動における話し合い活動の充実と教科間の交流（他教科との連携・他学年との交流）

(4) 具体的な取組

①授業改善（授業スタイルの徹底と応用）



- 課題 上質な課題 (考えたくなる・話したくなる・少し考えるとわかりそう)
- 自力解決 十分な時間 (自分の考えを書く)
- 学び合い
 - ・話が盛り上がるように意見を促す, 班員を指名する, 記録する
 - ・「なぜ?」「どうして?」「本当に?」など全員が話せる場面を作る
- 発表 代表発表 ワールドカフェ 全員発表 →発表の仕方の工夫
- まとめ 課題に対する正しい答えの確認
- 振り返り 自分の考えの変化や自分の到達点, 新たな疑問, 次への意欲, 感動等

教師の働きかけのポイントと手立て

- ① 教師の提示の内容 授業の課題について学び合いの視点が適切か。
何を深めて, 何を振り返るのか。
- ② 研究授業 全員に押さえてほしい内容の理解はなされたか (学び合い)
正しい表現を理解して自己表現につなげているか (振り返り)
- ③ 各教科の振り返りのポイントの決定とノート検証の定着 (例: 適用問題・条件付きでまとめる)

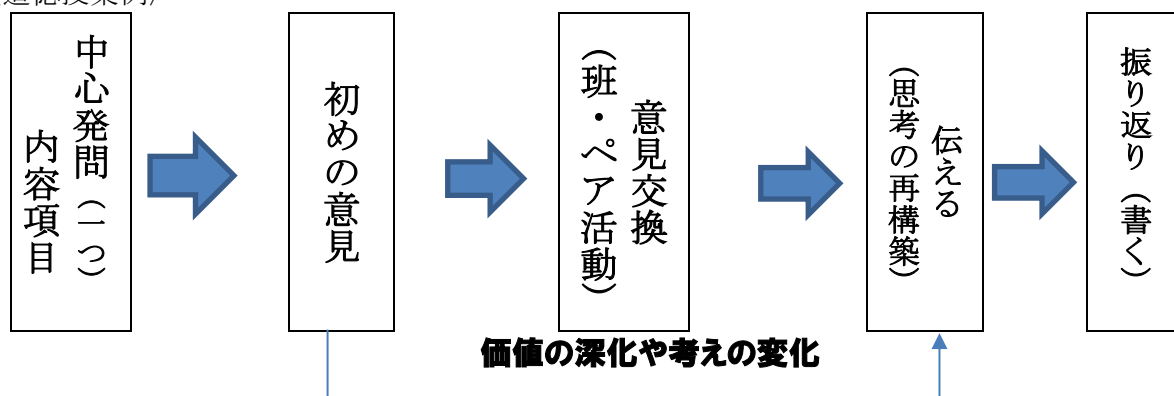
②学びを深め, 正しい表現を身につける活動の充実

- 学びを深め, 正しい表現を身につけるために, 予習課題の提示と生徒の不十分な解答から適切な表現を導き出すための場面の設定。
教師と生徒, 生徒同士のファシリテーション能力の向上。教師の視点の提示。
- 振り返りでの学びの自覚化
課題解決に向けて, 適切な言葉や表現を自分で見つけ, 整理し, 正しい表現でまとめたり, 学習の内容を振り返ったりする。
- 基礎学力の向上のために
補習や放課後学習での教え合い。小テストや帯活動での知識の定着をはかる。

③道徳や特別活動での学び合い活動の充実

- 道徳の授業のスタイルは中心発問を軸とし, 道徳的な課題に対して自分自身の問題として考え, 多様な考えに触れることを通して解決策を見出していく活動を充実させる。教師が問い返しや切り返し発問などを積極的に取り入れながら, 生徒がいろんな課題と向き合うことを通して道徳心を育んでいく。また, ワークシートを今年度も利用する。

〈道徳授業例〉



➤ 教科間の交流と連携

人数の減少や, 特別支援学級との交流, 学年間の交流授業を積極的に取り入れる。また, 学年を越えた授業も考え, 効果的な学び合いを模索していく。

➤ 生徒会活動で学年間の交流

委員会活動で一人一役の担当や学習集会による学年間交流活動を通して, 状況を変えて自分の意見を発表する機会から自信を持たせる。